

看護部



看護部 HP



1. スタッフ

看護部長 山本 治美
副看護部長 井原 国代
田邊 菜穂子
本田 万里子
今村 かおる

看護師長 34 名
副看護師長 72 名
看護師 697 名、看護補助者 84 名

外来部門	看護師長	1
	副看護師長	4
	看護師	48
中央部門	看護師長	2
	中央手術部看護師長	(1)
	中央材料部看護師長 (兼任)	
	中央放射線部看護師長	(1)
	副看護師長	7
	看護師	83
	看護補助者	2

()は内数 令和6年3月31日現在

2. 看護部理念

私たちは一人ひとりを尊重し、安全安心で信頼される看護に最善を尽くします

3. 令和5年度目標

- 安全安心で質の高い看護を提供する
 - 患者の意向を尊重した信頼される看護を実践する
 - 看護の専門性を高め、看護の質を可視化する
- 職務満足の高い、活気ある職場環境の整備と働き方改革を推進する
- 多職種と連携・協働し、チーム医療・地域貢献を推進する

2) 看護体制

- 7 対 1 入院基本料
- 夜間勤務等看護体制加算取得
- 2 交替制：16 時間夜勤、12 時間夜勤
- 夜勤専従看護師制度

3) 各種会議・委員会・ワーキンググループ

各種会議・委員会・WG名	開催頻度
看護師長会議	月 2 回
副看護師長合同会議	年 1 回
教育担当副看護師長会議	月 1 回
業務担当副看護師長会議	月 1 回
外来担当副看護師長会議	2 か月 1 回
専門・認定看護師会議	月 1 回
教育委員会	月 1 回と随時
業務委員会	月 1 回と随時
看護情報委員会	月 1 回
看護情報リンクナース会議	月 1 回
安全対策委員会	月 1 回と随時
安全リンクナース会議	月 1 回
感染リンクナース連絡会議	月 1 回
褥瘡リンクナース会議	月 1 回
療養支援ナース会議	月 1 回
クリニカルパス委員会	月 1 回
看護部クリニカルパス推進委員会	月 1 回
クリニカルラダー認定委員会	年 3 回
PNS 委員会	月 1 回
レクリエーション委員会	必要時
クリニカルラダー検討WG	随時
クリニカルラダー改定WG	随時
年報 WG	随時
病床コントロールWG	随時
システム構築WG	随時

4. 管理・運営

1) 看護部職員配置

看護部 管理室 (臨床試験支援センター含む)	看護部長	1
	副看護部長(総務、教育、業務、質管理)	4
	看護師長	7
	看護部管理室付看護師長	(1)
	医療の質・安全管理部看護師長	(1)
	看護職キャリア支援センター・外来化学療法センター看護師長	(1)
	看護教育支援室看護師長	(1)
	褥瘡対策室看護師長	(1)
	がんセンター・緩和ケアセンター看護師長	(1)
	地域医療連携センター看護師長	(1)
	副看護師長	11
	看護師	42
病棟部門	看護師長	22
	副看護師長	53
	看護師	493
	看護補助者	18

4) 各種会議 主な会議について記載

(1) 看護師長会議

看護部門における管理・運営・教育に関する審議や報告を行う。加えて各会議の最終決議をする。

(2) 副看護師長会議

教育・業務・外来担当全員の合同会議で、各担当会議の前年度評価と2022年度の活動計画について協議し、各担当会議において計画を実施する。

(3) 教育委員会

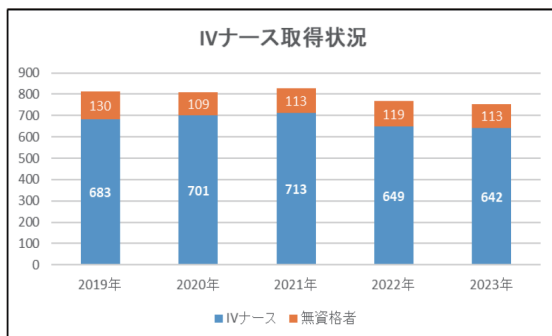
専門的知識を高め、根拠に基づいた看護を提供するための教育プログラムの企画、運営を行った。構成として新人看護職員研修、クリニカルラダーレベル別研修、指導者研修、管理者研修、専門・認定看護師が企画する専門看護研修、院内認定看護師養成研修、講演会など多岐にわたり開催した。

今年度はACPや臨床推論の研修を充実させるとともに、新規講師を7名招聘し、刷新を図った。いずれの研修も参加者の満足度は高い研修となった。

(4) 業務委員会

看護の質向上をめざし、看護業務の円滑な推進、業務改善・教育を実践した。

IVナース研修を3回実施し筆記試験・技術試験の結果、新たに47人のIVナースが認定された。IVナースは2024年3月時点で642人、取得率81.8%である。



より安全で高度な静脈注射実施と看護師・助産師への指導ができるIVナースインストラクターの育成研修を2回開催した。新規取得者は8名で、2024年3月時点でIVナースインストラクターは、103名である。

IVナース育成プログラム、熊本大学病院における看護師・助産師の静脈注射実施基準の改定を行った。改定したIVナース育成プログラム第4版では、IVナースの役割拡大を目指しCVポートインストラクター、CVポートナースを新設し、初

年度23名のCVポートインストラクターが誕生した。

看護補助者による安全・安心な業務遂行のため、派遣ナースエイド、病院雇用ナースエイド、学生アルバイトナースエイド研修を開催した。

重症度、医療・看護必要度における適正評価維持を目的に、全職員対象にeラーニング研修を実施した。重症度、医療・看護必要度の平均は、一般病棟32.0%、ICU91.1%、CCU85.3%、HCU98.7%であった。

(5) 看護情報委員会

2024年1月のシステムリプレイスに向けて、看護情報リンクナースと協働し、作業スケジュールチェック表作成、システム改定後の運用変更と操作方法について各部署へ周知、トラブル対応フローチャート作成等準備を実施し、無事にリプレイスを終えることができた。

新規採用者に対するKAIJU2操作のOJT、記録に関する研修を行った。

看護記録監査では、質的監査シートを改訂し患者の意向記録の定着を推進した。質・形式監査を2回実施し、結果のフィードバックを部署へ行った。ニュースレターを年1回発行し、監査結果の周知に努めた。

くまもとメディカルネットワークの安全で効率的な活用を推進するため「熊本大学病院看護部におけるくまもとメディカルネットワーク取り決め事項」を作成し、KMN利用者認証カードの取り扱い、個人情報管理、安全管理への周知を行った。

(6) 安全対策委員会

新規採用者が安全に業務を遂行できるよう、例年通り新規採用者注射・与薬研修、心電図モニター基礎研修、注射・与薬指導者研修を実施した。麻薬管理に関する教育用動画は、例年どおり期間を設定して全看護師・助産師に受講してもらった。しかし、確認テストの採点結果は変わらず芳しくなく、知識の積み上げには学修機会のスパンを短縮する等の工夫が必要であることも分かった。安全リンクナースの育成も継続し、インシデント事例要因分析を継続した。

患者誤認によるインシデントは対策を試みたが減少に至っていない。患者を確認することは徹底できるようになったが、実施しようとする行為と患者に齟齬がないかを確認できていない状況が散見された。年度後半から患者確認を「患者照合」に名称を変え、実践と患者の照合を推進することを次年度以降も継続とした。

転倒・転落に関するリスク予測のためのアルゴリズムは、現状使用しているスコアリングによるスクリーニングに加えて、日々のリスク予測に使用することで予防が可能になることが分かった。R5年度のリプレイスでシステム化できた。

(7) クリニカルパス委員会

クリニカルパス改定による医療の質向上と入院患者に対するタスク・シフト/シェア目的の時間外入院パスの活用推進に取り組んだ。医療の質向上では、クリニカルパスにおける患者視点のアウトカムの設定に取り組み、特に NRS などの疼痛管理に関する具体的な設定を推奨した。R5 年度改定分のアウトカムにはおおむね疼痛間に関するアウトカムが設定されるようになった。時間外入院パスは、各部署で作成は進んだ。クリニカルパスが本院の医療質向上だけではなく、タスク・シフト/シェアに繋がることを理解する事を医師にも理解していただくことで使用率も向上した。次年度も継続して取り組んでいく。

今後は外来パスなどの形式で、外来受診時の事前指示をセットがすることで医師の負担軽減にも寄与することができる。

(8) 病床コントロールワーキンググループ

効率的かつ効果的な病床運用に向けて情報交換を実施した。空床利用担当の看護師長が効率的に活動できるように支援した。

5) 実習生・研修生等受け入れ (令和5年度)

○看護実習生受け入れ状況

学校名	学年	人数
熊本大学医学部保健学科 (基礎看護実習)	1	76
熊本大学医学部保健学科 (成人・母性・小児・精神看護実習)	3	303
熊本大学医学部保健学科 統合	4	62
九州看護福祉大学看護学科 成人	3	39
九州看護福祉大学 統合	4	8
熊本保健科学大学 小児・精神	3	36
熊本保健科学大学 統合	4	12
熊本大学医学部医学科 早期臨床体験実習 (看護実習)	2	111
熊本大学医学部医学科 臨床実習入門 (看護実習)	4	129

○研修生受け入れ

派遣施設	人数	研修先
熊本大学薬学部薬学科学生 看護業務研修	54	東病棟5階 西病棟9、11階

○施設見学受け入れ

施設名	件数	場所
大分循環器病院	3	中央手術部
長崎大学	1	中央手術部
鹿児島大学	1	中央手術部
タイ王国国立コンケン大学	1	西病棟8階、NICU
山梨大学	1	産科、婦人科病棟 他
熊本保健科学大学	1	中央放射線部 他
いわき市医療センター	1	中央手術部
くまもと県北病院	1	中央手術部
熊本総合病院	1	中央手術部
人吉医療センター	2	中央手術部
熊本医療センター	2	中央手術部
熊本市民病院	2	中央手術部
米盛病院	1	中央手術部
川崎幸病院	1	中央手術部

○がん看護臨床実務研修

がん診療連携拠点病院機能強化事業としてのがん看護臨床実務研修ワーキンググループが以下の研修を実施した。

令和5年度

研修名	院内受講者数	院外受講数 (施設数)
がん看護セミナー (オンライン事例検討会を含む)	47	76 (20 施設)

5. 看護実践

1) 専門性の高い看護の提供

(1) 看護提供方式

- ①パートナーシップ・ナーシング・システム (PNS)
- ②熊本大学病院におけるプライマリ・ナーシング

(2) 人的資源

認定看護管理者 (日本看護協会)	4
専門看護師 (日本看護協会)	5
認定看護師 (日本看護協会)	18
認定CRC (臨床研究コーディネーター)	4
認定看護管理者ファーストレベル修了者	71
認定看護管理者セカンドレベル修了者	34
認定看護管理者サードレベル修了者	5
特定行為研修 (外科術後病棟) 修了者	19

令和6年3月31日現在

6. 教育の体系化

1) クリニカルラダーシステム

本院のクリニカルラダーシステムは、キャリアラダーである。看護師の実践評価指標として定着しており、キャリアデザインの構築等のキャリア開発にも活かされている。

○クリニカルラダーレベル認定者（令和6年3月31日）

対象者 776人	レベル 0	44
	レベル I	91
	レベル II-1	138
	レベル II-2	455
	レベル III	48
	レベル IV	0

(1) 現任教育

<教育理念>

一人ひとりの人権を尊重し、信頼と安全安心な看護を提供できる看護職を育成する

① 院内教育

院内教育は、ラダーレベル別研修や育成研修、研究会・報告会・講演会、専門分野の看護師による自主研修があり、研修別コース数は下記のとおりである。e-learningによる研修前学習、ハイブリッド講演会等を拡充した。

○令和5年度

研 修	コース
新人基礎研修	27
レベル I	4
レベルII-1	7
レベルII-2・III	13
看護管理	4
報告会	2
自主研修	6
指導者研修	2
育成研修	2
看護補助者研修	1
その他	4

②院外教育

日本看護協会、熊本県看護協会、各種学会・研究会主催の研修に自主的に参加している。

7. 患者移送支援室

看護師の業務負担軽減と効率化を図る事を目的として、2014年4月に開設され、主な業務として入院患者の移送・同伴歩行と車椅子移送・ストレッチャー移送の同伴・

転棟に伴う患者の荷物等の移送を行っている。今年度から外来移送支援業務も加わった。外来での業務は、総合案内における受診受付の手伝い、各ブロックからの依頼（薬剤・検体の受領、輸血の運搬、ストレッチャー移送同伴）対応であった。移送件数は年間約6万件で推移している。看護業務の負担軽減だけではなく、中央放射線部、リハビリ室、各種検査部門のスムーズな運営（患者到着遅延の減少・待合室混雑緩和等）にも貢献している。

